

第2回学校運営協議会議事録

日時：令和7年10月22日（水）午後1時30分から3時まで

場所：静岡県立藤枝東高等学校

参加者：学校運営協議会委員6人、本校管理職5人

オブザーバー参加：本校運営委員

○学校経営方針の進捗と運営状況【校長より挨拶・説明】

- ・本年度の学校経営方針は第1回協議会で承認済みで、計画に沿って運営中。大きな事故はなく概ね順調。
- ・後期の授業参観を開始し、校長・教頭が全教員の授業を毎時間参観。3年計画や授業のまとめの作成を求め、能動的学習への転換を目指す。
- ・台風15号の対応と防災意識の課題（9月5日の台風来襲時、下校時刻の判断が難航。生徒の雨濡れ、保護者迎え困難などが発生。教職員の防災意識向上が必要。地域・家庭被害に配慮し、学校生活継続の工夫を実施中。）
- ・探究活動の充実計画（古典・日本史・世界史探究などの教科における探究科目など、全教員で授業改善し必要な力を育成。総合的な探究の時間をアカデミックにバージョンアップし、最終アウトプットをまとめた文章で作成する構想。来年度に形を整え、再来年度4月開始を視野。）
- ・協議会運営の変更と体制整備（コミュニティ・スクール制度に基づき、地域とともにある学校運営を推進。委員意見を幅広く募り、熟議時間確保のため配置を変更。学校職員（課長・主任等）もオブザーバー参加。）

○全日制の状況について【全日制教頭より説明】

- ・管理職中心の授業参観を前期・後期で実施。教員相互参観で授業力向上。
- ・数学×家庭科の教科横断授業を前期に実施し、静岡新聞に取り上げられた。
- ・英語コミュニケーションでAI校閲を活用した授業公開を実施（ハワイの英文読解→故郷文化の英文作成→AI修正→発表）。
- ・9月11日に県総合教育センター指導主事による公開授業・全体研修。「発達支持的生徒指導の充実」をテーマに協議。指導主事からの講評
- ・台南一中主催SDGsに関する英語プレゼンテーション大会に招待参加。テーマ「スポーツと心の健康」で生徒4名が第2位相当受賞。
- ・創立100周年記念事業の海外研修をアメリカで今年度も実施。生徒4名がライス大学等で研修。あと2年継続して海外研修を予定。
- ・山岳部がインターハイ出場・入賞。生徒会・JRCが台風15号募金活動を実施。
- ・教育環境整備・心理的安全性と業務効率化（保健委員会の活性化で熱中症対策等を強化。ICT活用で連絡ソフト一本化。デジタル採点の継続使用で業務効率化。）
- ・8月に中学生一日体験入学を実施。副校长が学校説明を行い、スライド資料を配布し取組全体像を周知。

○定時制の状況について【定時制教頭より説明】

- ・学校経営計画の重点取組みについて。基本的生活習慣の確立と自立心の育成。面接を重点に位置付け、定期テストごとに毎回実施。随時声かけや個別面談で状況把握と支援。
- ・出欠状況の改善（1学期は欠席・遅刻が多くたが、2学期に大きく減少。学び意欲向上と基礎学力の

定着を進めている。)

- ・令和8年3月閉課予定。在籍は4年2人、3年4人の計6名。教員5名で少人数個別指導。進路実現と職業観の形成のため公的機関の講話中心で視野の拡大を支援。東海道シグマの講師派遣を年2回。次回2月は3年生中心、3年生の面談等の場慣れも促進。)

○協議 「志太・榛原地区の公立高等学校を志願する生徒を増やすために」をテーマ (14:20~15:30)

- ・現状認識と課題
- ・「地元で頑張りたい」と思ってもらうため、外部保護者目線・外部視点の意見を募る。
- ・選択理由のイメージ、進学実績、部活動、入試倍率、独自価値の方向性
- ・「スペック」重視で人気が集中する傾向。イメージ・スペックで選ばれやすい。藤枝東は「藤枝東でしかできないこと」の明確化が必要。
- ・進学実績の具体的な比較
- ・部活動のバリエーションも重要（音楽系など文科系が充実する他校と比較し、選択動機への影響も議論。入試倍率と地域の影響も考慮。年による変動はあるが大差はないとの見解。藤枝東は地元中学からの人気が高く「愛されている学校」と評価、など）
- ・独自価値の方向性（学力での直接競争が難しければ、自由度、自分らしい選択、生活面の魅力などの学力以外の強みを創出すべきでは。学外施設連携や「自習室+喫茶店併設」などの環境整備案。）
- ・高校の魅力向上：昼食・居場所、授業の面白さ、探究・議論の導入
- ・保護者目線では高校は弁当負担が大きい。学食は難しくても軽食入手の場や居場所の充実が有効。嘗利不可の制約下で購買時間連携のキッチンカーやワゴンを検討してはどうか。
- ・授業の面白さ不足と再設計（普通科で受験一辺倒の単調さの指摘。工業・農業系の「座学×実習リンク」に学び、満足度の差を認識。普通科での代替策として実習再現は難しいため、授業内ディスカッション導入で動機づけ・面白さを補う。職業イメージ・活用像の提示が効果的。探究では「寄り道を歓迎」「面白さに極振り」設計が魅力になり得る。）
- ・部活動の示唆（部活動の楽しさから学びへの示唆。ノーベル賞話題、学校課題解決などの社会接続を授業に取り込み、受験にプラスの「味」を添える。）
- ・授業運営の工夫（グループ学習の頻度と短時間導入。講義一辺倒を避け、仲間と学ぶ機会を少しづつ設ける認識が共有。5~10分の短時間グループ活動を頻繁に挿入し、内容確認・振り返りで意欲・理解を高める提案。）
- ・探究活動の意義と教員の役割（テーマ設定→方法検討→実践→振り返り・考察まで自分で考える学習で入試素養にもつながる。教員は軽いアドバイスと代替方法提示で伴走。成果より探究行為や意欲を重視する文化が重要。STEAMの実践例：自由研究支援の助言体制（大学教員含む）、中学生見学時のポスター発表の活用。知識が後から「生きている」と実感できる柔軟な学習観を共有。）